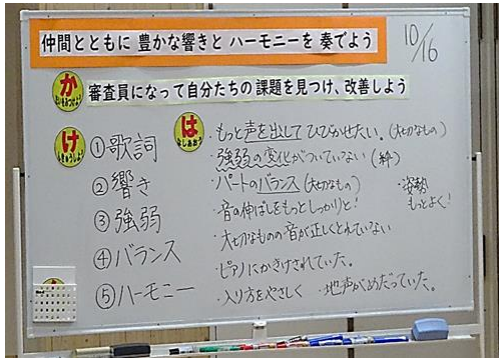


### 第3章

## 【子供の『やってみよう』『なるほど』『きっと』（挑戦や納得等）が生まれる展開の工夫】実践例

### 生徒の考えを広げる拡散的な問いを効果的に使った展開の取組 ～小国町立小国中学校（1年音楽）～



第1学年音楽科の合唱の単元において、「審査員になって自分たちの課題を見つけ、改善しよう」という課題を設定し、各自が考えた改善点をパートごとに話し合い、「改善のポイント」としてまとめる活動を行っています。

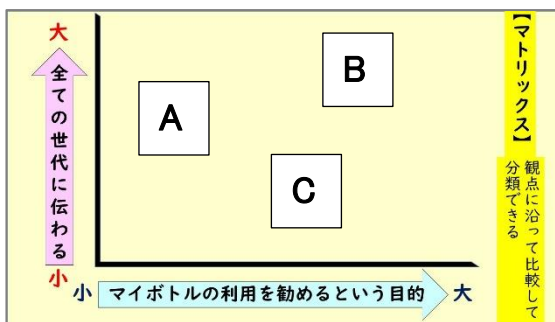
話し合い活動では、課題解決に向け、教師が「審査員だったら、課題をどう考えるか」という拡散的な問いを意図的に行い、生徒の考えを広げています。



「どう考えますか？」という拡散的な問いを行うことで、生徒が、審査員の立場で、今の合唱の課題（強弱の響き、パートのバランス等）について、主体的に考え、発表する活動につながっています。

さらに、生徒が課題解決に向け、相互に助言をしながら練習に取り組む主体的な活動にもつながっています。

### 考えを共有するための思考ツールを効果的に使った展開の取組 ～山都町立矢部中学校（3年国語）～



第3学年国語科の「話すこと・聞くこと」において、「マイボトル利用を推進するポスターとして、3枚のポスターの中からどれを選ぶか」という課題を設定し、合意形成を図る取組を行っています。

話し合い活動では、課題解決に向け、「全ての世代に伝わるか」「マイボトルの使用を勧めるという目的に合っているか」の2つの視点を示し、マトリックス表を用いて構造的に検討することで、合意形成を図っています。



思考ツールとしてのマトリックス表を使うことで、お互いの考えを表の中で共有することができました。また、グループでの考えを一つにまとめる話し合い活動を通して、自己の考えを広げ深めることができました。

### 第3章

## 【子供の『やってみよう』『なるほど』『きっと』（挑戦や納得等）が生まれる展開の工夫】実践例

### 考えを共有するための視点を明確にした展開の取組 ～錦町立一武小学校（6年国語）～



わかった  
なるほど

第6学年国語科「作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう」において、学習課題を「なぜ『やまなし』が題名なのだろうか。」と設定し、ホワイトボードを活用した話し合い活動を行い、考えを練り上げています。

教師が、「単元を通した課題」として設定した「自分がどう読んだのかを紹介カードにまとめる」を常に意識しながら問いかけを行ったことで、児童は、「自分がどう読んだのか」「友達はどう読んだのか」という視点をもって話し合っています。

全体で考えを共有する際、ホワイトボードに記された児童の考えの中から、教師が「今日の授業のポイントとなる部分」（お互いの考えの共通点、相違点となる部分）に線を引いたり、囲んだりすることで、児童にとって、お互いの考えを「比較する」ためのポイントが明確になりました。

### 展開における教師の働きかけをチェックする取組 ～大津町立大津小学校～

授業力向上部会が作成した「授業力向上のためのチェックリスト」を校内研修資料に掲載し、自分自身の日々の授業を定期的に自己チェックしている。

#### 【教師による積極的な学び合いのコーディネート】

- ☐ 1時間に3回は「ちょっと近くの人と話してみて」と言い、個々の学びを保証していますか。
- ☐ 「分からない」「困った」「なぜ」「考えてみたい」「間違えた」などの子どもの声を取り上げて、みんなで解決していく学習を組み立てていますか。
- ☐ 児童同士がとことん話す場を確保していますか。（教師はしゃべりすぎていませんか。）
- ☐ 「どういうこと？」「どう思う？」「本当にそう？」「なぜ？」などの子どもの思考を促す問い返しをしていますか。（子どもの発表の後に先生が解説をしていませんか。）

展開部分でのチェック項目を「教師による積極的な学び合いのコーディネート」として具体的に示すことで、展開場面における「教師のファシリテートのポイント」の可視化につながっています。さらに、研究授業では視点を持って参観し、他者の実践から学ぶことで、自己を振り返り、授業改善へとつなげることができています。